



職場体験学習で「学校の向こうにある社会」を体験しました（2年生）



11月26(火)～11月28(木)の3日間、本校の2年生が職場体験学習を行いました。感染症の流行もなく、医療施設、介護施設等を含めて、今年度は、昨年度よりも9増の全66事業所に分かれて実施することができました。各職場を訪問した2年団の職員からは、子どもたちが緊張しながらも次第に仕事を覚えていき、最後には生き生きとした表情で、有意義な体験ができていたとの報告がありました。

また、各事業所の方々からは「うちの事業所に来てくれてよかった」「職場に活気が生まれました」「仕事の基礎・基本を見直すことができました」「挨拶がよくなりました」「次年度以降も是非職場体験学習を続けてください」などの称賛や激励の言葉を数多くいただきました。

さて、職場体験学習が全国の中学校で行われるようになってから25年以上経ちますが、その重要性は一層高まっていると感じます。近年では、高等学校においてもインターンシップ制度を取り入れ、実際の職場で職業体験をしている学校も多くなっているようです。

たとえ子どもが進学希望であっても、「中学・高校・大学・専門学校等の向こうにある社会」を子どもに意識させ、いわゆる「学校」の卒業後に希望する職業や将来像について、体験学習等を通して考えてみることは極めて重要です。特に学校で学んでいる9教科、道徳、学級活動・生徒会活動、そして部活動を通してだけではなされにくい職業に関する教育について、特定の職業の能力向上を目的とするのではなく将来の進路選択の幅を広げる観点から、職場体験学習の機会を設けることは大切と考えます。



現代は進路選択や就業を取り巻く環境が大きく変化し、目的や将来への意識が希薄なまま進学する者、進路・職業の選択を先送りにする者が増えているとの話も聞きます。このような背景から、早い時期に職場での社会体験を通して、「働く大人」と接し、働くことの厳しさや楽しさ、やりがいなどを学び、子どもたちの勤労観や職業観を育むことが求められているわけです。

あらためて、職場体験学習の意義について以下にまとめました。

1 勤労観、職業観の育成の場

実際に仕事をしている人と接し、自分自身も体験することで、働くことの意義や目的の理解、進んで働こうとする意欲や態度等を育むこと。

2 新たな自分を発見する場

子どもたちが自己の個性や適性についての理解を深めながら、様々な体験・経験を通して、自分が役立つ存在であることを実感したり、自己の新たな可能性を見付けたりすること。

3 人間関係の大切さを体得する場

職場で働いている多くの職業人との触れ合いや交流を通して、異世代とのコミュニケーション能力を高めるとともに、社会人としての基本的マナーや言葉遣い等を身に付けること。

4 学校と社会をつなぐ場

学校での学習や生活が社会でなぜ大切なのか、どのように役立つのか、実際に仕事をしていく上でどのように用いられるのかを知ること。

5 職業生活や社会生活に必要な知識、技能等に関心をもつ場

職業で実際に用いられている知識、技能等に関心をもったり、実際に働いている人たちの生活ぶりを見聞きしたりする絶好の機会であること。

6 地域への理解を促進する場

地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさや大切さを発見する場合もあり、そのことが地元に対する愛着や誇りをもつことにつながる。

体験を終え学校に戻ってきた子どもたちは、今後体験学習後の「報告書の作成」や「発表会」を行う予定です。体験して「楽しかった」「充実していた」「難しかった」「疲れた」などの感想に留まらず、この3日間で学んだことと学校生活（挨拶・返事、身なり、言葉遣い、行動力・実行力、責任感等）をリンクさせたり、進路実現のために一層学業に力を入れるようになったりするなど、それぞれの子どもたちの一歩成長した姿への変容を期待したいと思います。

【令和6年11月26日(火)~28(木) 職場体験学習風景(一部)】

